

」【源泉交游】

「天網恢恢、疎にして漏らさず」

「天網恢恢として、疎にして失わず」（老子）・・・天は大きな網を張っている。その網は恢恢、すなわちいかにも目が粗いかにも見えるが、何事をも決してもらすものではない、長い目で見れば、よい人には必ず幸せを授け、悪い人は結局不幸を免れない。・・・と諸橋轍次は解説しています。また『成語大辞苑』にも同じく同様の解説の締めくくりで「善は必ず栄え、悪は必ず滅びる」とやや直接的に言い切って説明しております。さて、秘密の部分を作り、肝心の部分を市民には見えないようにした“ポンプ場工事賠償問題”の処理経過と結末はどの様に成るのでしょうか。“疎にして失わず”の部分をも推測してみたいものです。

さて、幼児の内緒の話は可愛くもあり、ほほえましい事もありますが、定年前後のオッサン達（ぶくぶくコンビ達）が頭を突き合わせて密かに練る内緒ごとには、老獺で“生臭い”匂いが漂う事もあります。従って、まず何事も公明正大にすべく、風通しを良くして老醜の匂いから逃避する必要があります。ポンプ場工事保障問題においても、当局（市長たち）は、わざわざ「秘密会」を設けて、肝心なことは市民には見えないように嚴重に配慮しているようですが、どんなことでも事実は無くすることは出来ません。むしろ、疑惑を抱かれるからと隠したことが、さらに新たな疑惑を生み出す原因となり、思惑とは逆に疑惑は雪だるまの様に膨らみ、どんどんと大きくなり取返しの効かぬほど拡大してしまう事もあります。もし仮に失敗しても隠し立て等せず、正直に公明正大に納得できるように説明し申告すれば、対策の知恵や方法も湧いてくるというのですが、見栄や調子で臭いものに蓋をするようなことをしても解決にはなりません。ドツボを掘りドツボに浸かって遊んでいた人が、ドツボに蓋をしても体にしみついた匂いは抜けない物です。当局は説明の付かないことを理不尽にも蓋をして無理やり市議会を通過させて満足しているようですが、市議会で了承されたとして「黒い物」はやはり「黒い物」です。今の市議会に清浄化する働きはありません。「黒いもの」を審議することもなく、単純な多数決で通過させることで、「無色」であるべき市議会までも、あざやかに「黒色」に汚す結果となっています。オッサン達の密談も、「秘密会」にすればすべてなかったことになると考えるのは道理に合いません。オッサン達の密談が可愛いことでも、ほほえましいことでもないことは容易に想像できます。ただ蓋をしても腐臭だけは漂てきます。秘密にして「見るな」と言われると見たくなるのが人情です。しかも、肝心なところは見せない「秘密」の部分は、想像で勝手に判断せよと公認しているようなもの、聖域なしに自由に想像し、もし誤りがあってもその責任は、情報を伏せている当局にあると言う事です。老醜をさらすかの様なオッサン達の関心ごとは、「お金」と「保身」と「名誉」です。この3点について暴かれることが最も老後にこたえることです。さしづめ「お金」に絡むことは最も身近であり「お金の疑惑」は切実な現実問題です。“ぶくぶくコンビ”達が、“ぶくぶく王国”を夢見て、市政で“ぶくぶくランド”の様にハシャグのももう終わりです。